

# 2月 定例会の概要

2月19日～3月14日までの24日間



## 会期中の主な動き

- 議会運営委員の定員変更(12人→11人) ..... 2 / 19
- 特別委員会の開催
  - 東南海・南海地震等対策特別委員会 ..... 2 / 28
  - 行政改革・基本計画等に関する特別委員会 ..... 3 / 6
  - 予算特別委員会 ..... 3 / 7、10、13

## 議案等の議決結果

項目	件数	件名	結果
予算案件(知事提出)	32件	平成26年度和歌山県一般会計予算 等	可決
条例案件(議員提出)	2件	和歌山県議会議員の定数並びに選挙区及び各選挙区において選挙すべき議員の数を定める条例の一部を改正する条例 議会の議員の議員報酬の特例に関する条例の一部を改正する条例	否決
条例案件(知事提出)	47件	知事等の給料の特例に関する条例の一部を改正する条例 等	可決
その他案件( // )	21件	平成26年度建設事業施行に伴う市町村負担金について 等	承認
知事専決処分報告( // )	1件	平成25年度一般会計補正予算	承認
意見書	8件	大規模災害に備えた県土の強靱化を求める意見書	可決
		西日本危機管理総合庁(仮称)の新設を求める意見書	
		災害時多目的船の導入を求める意見書	
		消費税の軽減税率の制度設計と導入時期の明確化を求める意見書	
		2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた環境整備及び地域における取り組みへの支援を求める意見書	
		微小粒子物質(PM2.5)に係る総合的な対策の推進を求める意見書	
		食の安全・安心の確立を求める意見書	
		労働者保護ルール改正に慎重な議論を求める意見書	否決

## 一般質問議員16人

2月28日(金)	3月3日(月)	3月4日(火)	3月5日(水)	3月6日(木)
富安 民浩 岸本 健	森 礼子 中 拓哉 雑賀 光夫	藤本 眞利子 濱口 太史 松坂 英樹	多田 純一 片桐 章浩 高田 由一 中村 裕一	立谷 誠一 浦口 高典 井出 益弘 吉井 和視

主な質問とこれに対する知事や関係当局の答弁は、次のとおりです。(要約)

## 政策

### 知事の第3期県政への決意

**問** 仁坂知事には、これからも県職員と一致団結して真のリーダーとして和歌山県政に取り組んでいただきたい。第3期県政への決意のほどはどうか。

**答** 2期7年余り県政執行に打ち込むことができたのは、県議会議員、県選出国會議員、市町村長等各地域の指導者、そして何よりも100万県民の温かい励ましと力添えがあったからこそであり、心から感謝申し上げます。もし許されるのならば、引き続き県知事として、県政をリードする責めを負わせていただき、これまでに以上に粉骨砕身、あらん限りの力を振り絞って、我が愛するふるさと和歌山の発展のために、知事としての重責を負わせていただきたいと考えております。

### 平成26年度当初予算の重点政策

**問** 平成26年度当初予算は、知事就任2期目の集大成として取りまとめたと思うが、「元氣な和歌山」の実現に向けてどのような政策を重点的に取り組んでいくのか。

**答** 平成26年度当初予算では、安心して暮らせる社会を構築するための「安全と安心」、将来の成長へと導くための「未来への投資」の2つの柱に重点を置いて予算編成を行いました。「安全と安心」では、地震・津波による犠牲者ゼロをめざした対策の推進や高齢者対策の充実、「未来への投資」では、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会に向けた開催機運の醸成、地域経済を支える企業の成長支援、「世界遺産登録10周年」を迎えることを契機とした誘客キャンペーンの実施等に取り組んでいきます。

## まちづくり

### 都市再生の推進

**問** 知事の記者会見で、都市の再生について県として、都市の再生を市町村に提案していくことであるが、これまでの和歌山市の市街地活性化策への評価はどうか。

**答** 市の報告では、計画された事業はおおむね完成したが、中心市街地の居住人口減少に歯止めがかからず、目標値をいずれも下回ったとなっていますが、中心

部の土地需要を高めるためには、周辺部への発展を少しセーブしなければなりません。市町村はきちんとした哲学を持ってまちづくりを設計し、県は都市計画の重要性を指摘するとともに、具体的な再開発プラン等も提案しながら市町村に働きかけていきます。



## 自然環境

### 南紀熊野ジオパーク構想の推進

**問** 平成26年度は南紀熊野ジオパークの誕生に向けて日本ジオパーク認定への申請を行うとのことであるが、申請手続と認定までのスケジュール、取組はどうか。

**答** 3月末までに日本ジオパークネットワーク加盟申請書を提出し、4月末のプレゼンテーション、その後の現地審査を経て、8月28日の日本ジオパーク委員会で合否が決定されます。取組

としては、日本ジオパーク認定への対応のほか、ジオパークの見どころとなるジオサイトの説明板の整備、教育現場で活用できる副読本の作成等、多くの方に訪問してもらえよう育て上げ、地域の活性化につなげていきます。

**南紀熊野ジオパーク**…ジオパークとは、「大地の公園」とも言われ、ジオ(大地)とその恵みに親しみ、それらを楽しみ、学ぶところ。現在、紀南の新宮市をはじめ9市町村のエリアにおいて、地域の持続可能な発展を目的として、ジオパーク認定に向けた取組をしている。



## 道路

### 高速道路の整備

**問** 近畿自動車道紀勢線すさみ～串本間が新規事業化候補として手続が進められることが発表された。一刻も早い紀伊半島一周を目指して切れ目のない事業継続を望むが、県として今後どう取り組んでいくのか。

**答** 近畿自動車道紀伊半島一周の実現は、企業立地や観光振興、農林水産業の振興など、県民の将来のチャンスを保障するものとして、さらには南海トラフ巨大地震などの大規模災害への備え

として、不可欠かつ急務です。まずはすさみ串本道路を事業化してもらい一刻も早く完成させ、引き続き、紀伊半島一周高速道路の早期実現を国や関係機関に働きかけていきます。

